都内及び近県における女子短大生のミネラルウォーター 利用状況調査について

—1988年, 1998年と2002年調査の比較—

今中正美・栗畑亜紀子・道本千衣子

(跡見学園女子大学短期大学部)

A study of the use of mineral water by women's junior college students in Tokyo metropolitan area.

— Comparison of survey data from 1988, 1998 and 2002 —

Masami Imanaka, Akiko Kurihata, Chieko Domoto

Atomi Junior College, 1-5-2, Otsuka, Bunkyo-ku, Tokyo, 112-8687

〒112-8687 東京都文京区大塚 1-5-2

The use of mineral water at home began to increase since the mid 1980s.

Since good drinking water is free from the tap in Japan, we doubted if this tendency to buy mineral water would continue to increase and become popular in Japan.

In order to verify this, we conducted a survey in 1988, in 1998 and additionally in 2002 among women's junior college students who live in the Tokyo metropolitan area. Based on the 1988 survey, there was still a slight hesitation to buy water, and mineral water seemed to be for emergency use only, while the use of a water purifier seemed more promising for those who have complaints about the quality of tap water. From the 1998 survey, ten years later, the use of a water purifier had definitely increased, but the use of mineral water had increased more. The reason for this was considered to be the increase in people's interest in good healthy drinking water. However, in the follow-up survey in 2002, some reluctance to buy mineral water was observed due to the change in surroundings and the effect of a long recession.

We feel that addition research on the use of mineral water is necessary in order to verify our doubt.

はじめに

1980年代に入り、食生活と健康に関する関心が高まり、グルメ志向、健康志向と表現されるようになった。飲料水についても同様の傾向が見られ始め、大都市においては水道水の質の低下が指摘されていた¹⁾。

1986年厚生省令で殺菌・除菌を要しないミネラルウォーター類の製造基準が設定されたことに伴い²⁾円高による購買力の高まりを背景にミネラルウォーターの輸入品が日本の市場に攻勢をかけてきた³⁾。このような社会背景のもとに家庭でのミネラルウォーターの使用量が増加し始めた⁴⁾。

イザヤ・ベンダサン著『日本人とユダヤ人』の一

節に「日本人は安全と水は無料で手に入ると思い込んでいる」とあるように⁵⁾、水を買うという意識の薄かった私達日本人の生活に、このミネラルウォーターが定着するのであろうかという疑問が生じた。そこで、1988年本学家政科学生にミネラルウォーターの利用状況についてアンケート調査を試みたところ、飲料水として利用したことのある学生は全体の43.4%と低く、その内の約半数しか購入経験がなく、今後(も)購入すると回答した学生は約13%であった。購入理由等を考え合わせ著者らは、ミネラルウォーターの利用量は日常の飲料水としてよりも非常用としては増加するが、味や健康の面から水道水に不安、不満を感じている人の多くは、ミネラルウォーターを買うというより、浄水器を使用する方向に向かう

のではないかと推測した。

10年経過後の1998年同様の調査を実施し、前回調査結果と比較することで検証を試みた。また長期化する経済不況はミネラルウォーターの利用（水を買うこと）にもかなりの影響を与えると考えられることから、2002年に部分的な調査を行い、1988年と1998年の2度の調査結果と共に検討した。

調査方法

ミネラルウォーターの利用状況についてアンケート調査票を作成し、1988年と1998年本学家政科の学生に集団自記式によるアンケート調査を行った。更に嗜好についても検討するために1988年と1998年に本学家政科食物分野の学生に対し、官能検査を行った。また、2002年にはのどが渇いたときに購入する物について本学家政科学生に集団自記式によるアンケート調査を行った。

① ミネラルウォーターの利用状況調査

調査時期：1988年12月～1989年1月。

1988年12月。

2002年10月。

調査対象：1988年調査は本学家政科学生83名。

1998年調査は本学家政科学生247名。

2002年調査は本学家政科学生109名。

調査方法：1988年、1998年調査とも通常の飲料水の種類と利用状況、ミネラルウォーターの利用状況、ミネラルウォーターの今後の購入等について11項目のアンケート調査票を作成し、集団自記式による調査を行った。

また、2002年調査については、喉が渇いたときに購入するもの等3項目のアンケート調査を集団自記式で行った。

検定方法：利用飲料水、ミネラルウォーター飲料水利用率、浄水器利用率、ミネラルウォーター購入頻度、購入理由、ミネラルウォーターの今後の購入について1988年と1998年度調査間で比率の差の検定を行った。（片側検定、有意水準 $\alpha = 0.05$ ）

2002年調査については単純集計のみとした。

② 官能検査

検査時期：1987年12月～1988年1月、1988年12月～1989年1月。

1998年11月～1999年1月。

検査対象：1987～1989年検査は本学家政科食物分野学生延べ356名。

1998～1999年検査は本学家政科食物分野学生延べ185名。

検査方法：ミネラルウォーター、水道水、浄水器を通した水それぞれについて三点識別法及び三点嗜好法で検査を行った。

検査試料：

1988年：国産ミネラルウォーターは加熱殺菌した水。輸入ミネラルウォーターは無殺（除）菌、ナチュラルミネラルウォーター天然無発泡性。浄水器は卓上型イオン交換樹脂と銀活性炭を通すタイプ。水道水は江戸川・荒川・東村山水系で屋上貯水槽の水。

1998年：国産ミネラルウォーターはマイクロフィルタを

表1 飲料水の種類と利用状況

質問事項	1988年度調査				1998年度調査			
	水道管直接71名 % 人数	貯水槽の水12名 % 人数			水道管直接205名 % 人数	貯水槽の水42名 % 人数		
1. 1日に飲む水の量								
イ 0	28.2 (20)	33.3 (4)			45.4 (93)	52.4 (22)		
ロ コップ1杯	47.9 (34)	41.7 (5)			33.7 (69)	33.3 (14)		
ハ コップ2杯	12.7 (9)	16.7 (2)			12.2 (25)	4.8 (2)		
ニ コップ3杯	8.5 (6)	8.3 (1)			4.4 (9)	7.1 (3)		
ホ コップ4杯以上	1.4 (1)	0.0 (0)			3.9 (8)	2.4 (1)		
ヘ その他	1.4 (1)	0.0 (0)			0.5 (1)	0.0 (0)		
2. あなたの飲む飲料水は？								
イ 蛇口から出たまま	62.0* (44)	66.7* (8)			35.6 (73)	16.7 (7)		
ロ 湯冷まし	5.6 (4)	25.0 (3)			9.3 (19)	9.5 (4)		
ハ ミネラルウォーター	1.4 (1)	8.3 (1)			23.4* (48)	19.0 (8)		
ニ 浄水器を通した水	25.4 (18)	16.7 (2)			33.7 (69)	47.6* (20)		
ホ その他	7.0 (5)	8.3 (1)			3.4 (7)	14.3 (6)		
3. 飲料水の温度について								
イ 冷やしている	11.3 (8)	33.3 (4)			34.6 (71)	45.2 (19)		
ロ 冷やしていない	50.7 (36)	50.0 (6)			44.4 (91)	38.1 (16)		
ハ 季節によって冷やす	35.2 (25)	8.3 (1)			20.0 (41)	14.3 (6)		
ニ 無回答	2.8 (2)	8.3 (1)			1.0 (2)	2.4 (1)		
4. 飲料水の味								
イ おいしい	16.9 (12)	25.0 (3)			28.3 (58)	28.6 (12)		
ロ まずい	22.5 (16)	58.3 (7)			23.4 (48)	21.4 (9)		
ハ どちらでもない	59.2 (42)	8.3 (1)			46.8 (96)	47.6 (20)		
ニ 無回答	1.4 (1)	8.3 (1)			1.5 (3)	2.4 (1)		

*比率の差の検定（片側検定、有意水準5%）

注）2は複数回答を含む

通した水。輸入ミネラルウォーターは無殺（除）菌，ナチュラルミネラルウォーター天然無発泡性。浄水器は蛇口取り付け型，活性炭と中空系フィルターを通すタイプ。水道水は江戸川・荒川・東村山水系で屋上貯水槽の水。

検定方法：三点識別法の検定のための表及び三点嗜好法の検定のための表により検定を行った⁶⁾。

なお，学生の居住地域は，通学時間約100分以内，東京都，埼玉県，千葉県，神奈川県，茨城県にわたる都心からほぼ60km圏内。

結 果

飲料水の種類と利用状況については表1に示した。

1988年度調査では，全体の85.5%が水道管から直接の

水（以後水道管直接とする）を，14.5%がマンション等で貯水槽に貯めた水（以後貯水槽とする）を使用していた。水道管直接家庭の62.0%，貯水槽家庭の66.7%が蛇口から出た水をそのまま飲料水とし，浄水器を通した水を飲料水としている人は，水道管直接25.4%，貯水槽16.7%であった。1998年度調査では，蛇口から出た水をそのまま飲料水としている人は，水道管直接の35.6%，貯水槽の16.7%と有意に減少し，浄水器を通した水を飲料水としている人は，水道管直接の33.7%，貯水槽の47.6%に増加した。ミネラルウォーターを飲料水としていると回答した人は，1988年調査では水道管直接の1.4%，実人数にして1名，貯水槽の8.3%，実人数にして1名であったが，1998年調査では，水道管直接の23.4%，貯水槽の

表2 飲料水としてのミネラルウォーターの利用状況

質問事項	1988年度調査				1998年度調査			
	水道管直接71名		貯水槽の水12名		水道管直接205名		貯水槽の水42名	
	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
5. ミネラルウォーターの飲料水利用								
イ ある	42.3	(30)	50.0	(6)	93.7*	(192)	90.5*	(38)
ロ なし	54.9	(39)	50.0	(6)	5.4	(11)	7.1	(3)
ハ わからない	2.8	(2)	0.0	(0)	0.5	(1)	2.4	(1)
ニ 無回答	0.0	(0)	0.0	(0)	0.5	(1)	0.0	(0)
6. ミネラルウォーターの味								
イ おいしい	53.3	(16)	50.0	(3)	49.5	(95)	47.4	(18)
ロ まずい	6.7	(2)	0.0	(0)	1.6	(3)	2.6	(1)
ハ どちらでもない	26.7	(8)	16.7	(1)	33.3	(64)	34.2	(13)
ニ その時によって違う	3.3	(1)	0.0	(0)	15.1	(29)	15.8	(6)
ホ その他	10.0	(3)	33.3	(2)	0.5	(1)	0.0	(0)
7. あなたのミネラルウォーター購入経験								
イ よく買う(週 回)	0.0	(0)	16.7	(1)	9.4*	(18)	7.9	(3)
ロ 時々買う(月 回)	16.7	(5)	16.7	(1)	19.8	(38)	15.8	(6)
ハ 殆ど買わない	36.7	(11)	33.3	(2)	51.6	(99)	50.0	(19)
ニ 全く買わない	46.7*	(14)	33.3	(2)	18.8	(36)	23.7	(9)
ホ 無回答	0.0	(0)	0.0	(0)	0.5	(1)	2.6	(1)
8. 購入理由								
イ 興味で	75.0*	(12)	100.0*	(4)	27.1	(42)	32.1	(9)
ロ 通常の飲料水が不味い	25.0	(4)	25.0	(1)	23.2	(36)	14.3	(4)
ハ 健康のため	12.5	(2)	0.0	(0)	12.9	(20)	17.9	(5)
ニ そこに飲料水がなかった	6.3	(1)	25.0	(1)	24.5*	(38)	17.9	(5)
ホ その他	0.0	(0)	0.0	(0)	15.5	(24)	21.4	(6)
9. ミネラルウォーターの今後の購入								
イ 買う	9.9	(7)	33.3	(4)	33.7*	(69)	23.8	(10)
ロ 買わない	35.2*	(25)	16.7	(2)	9.8	(20)	21.4	(9)
ハ わからない	52.1	(37)	50.0	(6)	49.3	(101)	47.6	(20)
ニ 無回答	2.8	(2)	0.0	(0)	7.3	(15)	7.1	(3)
10. 今後の購入理由								
イ おいしい	28.6	(2)	50.0	(2)	60.9	(42)	60.0	(6)
ロ 健康のため	14.3	(1)	0.0	(0)	14.5	(10)	20.0	(2)
ハ 豊かな気持ちになれるから	14.3	(1)	0.0	(0)	4.3	(3)	0.0	(0)
ニ 流行だから	0.0	(0)	25.0	(1)	0.0	(0)	0.0	(0)
ホ 高価とは思わない	14.3	(1)	0.0	(0)	7.2	(5)	10.0	(1)
ヘ 非常用・旅行用	28.6	(2)	0.0	(0)	7.2	(5)	0.0	(0)
ト その他	0.0	(0)	50.0	(2)	11.6	(8)	10.0	(1)
11. 今後購入しない理由								
イ 買って飲むほどおいしくない	16.0	(4)	50.0	(1)	45.0	(9)	44.4	(4)
ロ 高価	12.0	(3)	0.0	(0)	10.0	(2)	0.0	(0)
ハ 興味なし	68.0	(17)	50.0	(1)	35.0	(7)	44.4	(4)
ニ その他	16.0	(4)	0.0	(0)	10.0	(2)	22.2	(2)

*比率の差の検定（片側検定，有意水準5%）

注） 6， 7はミネラルウォーターの飲料水利用者の回答率。8はミネラルウォーター購入経験者の回答率。

10はミネラルウォーターを今後購入する学生の回答率。11はミネラルウォーターを今後購入しない学生の回答率。

19.0%と大幅に増加した。また、水道管直接ではミネラルウォーター利用者が、貯水槽では浄水器利用者が前回調査より有意に増加した。

ミネラルウォーターの利用状況については表2に示すように、ミネラルウォーターを飲料水として利用したことがある人は、1988年調査では水道管直接の42.3%、貯水槽の50.0%であったが、1998年調査では水道管直接の93.7%、貯水槽の90.5%といずれも有意に増加した。

ミネラルウォーター利用経験者にミネラルウォーターの購入について質問した結果、ミネラルウォーターの購入頻度については、1988年調査では水道管直接の46.7%、貯水槽の33.3%が全く買わないと回答していた。1998年

調査では、全く買わないと回答した人は水道管直接18.8%、貯水槽23.7%といずれも減少しており、水道管直接の方では、有意差が認められた。さらに、購入理由を見ると、1988年調査では殆どが興味であったが、1998年調査では興味での購入者が最も多くいたものの、有意に減少し、水道管直接では、そこに飲料水がなかったから、通常の飲料水がまずいからという回答がほぼ同じ割合で続き、貯水槽では、健康のため、そこに飲料水がなかったから、通常の飲料水がまずいからがほぼ同じ割合で挙げられた。そこに飲料水がなかったからという回答は水道管直接の方において、1988年・1998年調査間で有意に増加していた。

表3 ミネラルウォーター、浄水器を通した水、水道水についての3点嗜好法による官能検査結果

検査年度	試飲温度	水道水嗜好者	国産ミネラルウォーター嗜好者
1988年	21℃±1℃	65.1 (28)	34.9 (15)
n=48	8℃±1℃	69.8* (30)	30.2 (13)
1998年	21℃±1℃	51.4 (18)	48.6 (17)
n=43	8℃±1℃	72.4* (21)	27.6 (8)

検査年度	試飲温度	水道水嗜好者	輸入ミネラルウォーター嗜好者
1988年	21℃±1℃	12.2 (6)	87.8* (43)
n=77	8℃±1℃	24.1 (13)	75.9* (41)
1998年	21℃±1℃	70.4* (19)	29.6 (8)
n=40	8℃±1℃	63.0* (17)	37.0 (10)

検査年度	試飲温度	水道水嗜好者	浄水器の水嗜好者
1988年	21℃±1℃	44.4 (20)	55.6 (25)
n=66	8℃±1℃	40.0 (14)	60.0 (21)
1998年	21℃±1℃	8.3 (2)	91.7* (22)
n=30	8℃±1℃	8.7 (2)	91.3* (21)

検査年度	試飲温度	国産ミネラルウォーター嗜好者	浄水器の水嗜好者
1988年	21℃±1℃	52.2 (24)	47.8 (22)
n=83	8℃±1℃	68.6* (35)	31.4 (16)
1998年	21℃±1℃	16.7 (2)	83.3 (10)
n=39	8℃±1℃	42.1 (8)	57.9 (11)

検査年度	試飲温度	国産ミネラルウォーター嗜好者	輸入ミネラルウォーター嗜好者
1988年	21℃±1℃	21.1 (12)	78.9* (45)
n=82	8℃±1℃	55.3 (26)	44.7 (21)
1998年	21℃±1℃	76.5* (13)	23.5 (4)
n=33	8℃±1℃	76.9 (10)	23.1 (3)

3点識別法の検定のための表及び3点嗜好法の検定のための表により検定を行った結果、識別可能な場合は、嗜好に差がある場合は各%の横に*を付す。

ミネラルウォーターの今後の購入については、表2に示す結果が得られた。1988年調査では買うと回答した人が水道管直接では9.9%であったが、1998年では33.7%と有意に増加、逆に買わないと回答した人が35.2%から9.8%へと有意に減少した。貯水槽の人では買うと回答した人が、1988年調査で33.3%、1998年調査で23.8%と両調査間に大きな差異は認められなかった。今後の購入理由については、1988年調査では「味」次いで「非常用・旅行用」であったが、1998年調査では「味」次いで「健康のため」となった。購入しない理由は1988年調査では「興味なし」という回答が非常に多かったが、1998年調査では「興味なし」「買って飲むほどおいしくない」であった。

ミネラルウォーター・浄水器を通した水・水道水についての官能検査の結果を表3に示した。1988年の水道水と国産ミネラルウォーター間の検査では室温、冷温とも水道水嗜好者が多く、冷温では有意差が認められた。1998年の水道水と輸入ミネラルウォーター間の検査では室温・冷温とも水道水嗜好者が有意に多くいた等、必ずしもミネラルウォーターが好まれているとはいえなかった。

考 察

大都市での水道水の質の低下、グルメ志向、健康志向、さらに、1986年の厚生省令の改正、円高による購買力増加による輸入ミネラルウォーターの攻勢などを受けてミネラルウォーターが生活に定着しつつあるといわれていた。水は無料で手に入るという日本人の意識が変化してきているのであろうかという疑問が生じた。そこで、1988年に本学家政科の学生にアンケート調査を実施し、ミネラルウォーターの利用状況と今後の購入についてなどを検討した。

1988年調査では、ミネラルウォーターの飲用経験者は水道管直接と貯水槽の水利用者の43.4%で、その内の約40%が贈答品や友人宅での飲用等であり、自分や家族が購入したものではなく、友人知人等が購入したもののみの飲用経験であった。ミネラルウォーターの飲用経験者中の購入経験者は55.6%で、その内の80%が「興味で」購入していた。今後（も）購入するという学生は全体の13.3%と低かったが、これは1986年8月に総理府が行った水資源に関する世論調査で「お金を払ってまでもうまい水を飲みたい（含どちらかといえば飲みたい）」という回答が11大都市の17.4%、20代女性全体の18.8%という結果とも一致していた⁷⁾。購入理由は「おいしいから」36.4%、次いで「非常用・旅行用」18.2%であった。逆に、今後（も）購入しないという学生が32.5%おり、主な理由は「興味がない」「買って飲むほどおいしくない」というものであった。今後も購入すると答えた学生の購入理由が「おいしいから」ということであったが、官能検査からは必ずしもミネラルウォーターが好まれている

という結果は得られなかった。浄水器利用者が20%余り存在し、その浄水器利用者のミネラルウォーター購入意欲が5.3%と低い値を示したことは飲料水に不安不満を持っている人が既に浄水器に移行していることを示唆していると考えられた。

また、ミネラルウォーターに対する意見欄に「おいしいが、わざわざ買おうと思わない」「水なんて買うものではない」などの意見が見られた。先の世論調査で「河川や湖沼の浄化、汚濁防止を国などに力を入れて欲しい」と11大都市に居住する約60%が回答し、「お金を払ってまでもうまい水を飲みたいくない（含どちらかといえば飲みたいくない）」と11大都市に居住する70%以上が回答していたこと等を考え合わせると「水を買う」ことへの抵抗感はかなり強いことが示唆されたので、今後ミネラルウォーターは非常用としての利用は増すと思われるが、飲料水としての利用は急増しないのではないか、水道水に不安あるいは不満を感じている人の多くは浄水器を利用するのではないかと推測し、10年後に同様調査を行い更に検討することとした。

1990年以降、我が国のミネラルウォーターの家庭用消費は著しい伸びを示した⁴⁾。著者らが行った1998年調査では、蛇口から出た水をそのまま飲料水としている人が、水道管直接と貯水槽の水利用者の32.4%と前回調査時より半減し、推測通り、浄水器を通した水の利用者が24.1%から36%と増加していたが、ミネラルウォーター利用者もまた2.4%から22.7%と増加していた。

1994年9月に総理府が行った「人と水との関わりに関する世論調査」によると大都市では生活用水に対する不満がある人は約25%おり、多くの人は不満な点に「飲んでいる水がおいしくない」「臭いがついている」「安心して飲めない」ことを挙げている⁸⁾。これらの結果がこのような回答となったと考える。著者らの1998年調査では、ミネラルウォーター飲用経験者は93.1%に上り、購入経験者の購入理由では「興味」が80%から27.9%に減少していた。今後の購入については全体の32%が購入すると回答し、ミネラルウォーターを飲料水として利用している人の70%以上が今後も購入すると回答している。これらを考え合わせるとミネラルウォーターが学生の生活の中にも定着したことが伺える。

家庭用ミネラルウォーターの消費が著者らの推測以上に著しく伸びた要因については、非常時の特別需要増を繰り返しそれをきっかけに飲用者を増やした。あるいは水道水のまずさ、天然・健康志向、グルメ志向、若者達のファッション感覚での消費、海外旅行経験者の増加による水購入への抵抗感の薄れ、バブル経済下での消費性向の高まり、全国的に強力な販売力を持つ企業の家庭用需要の掘り起こし、更には1986年食品衛生法改正によるヨーロッパからの輸入品の急増、マスコミ報道による影響等が各種報告で挙げられている^{9)~11)}。また、健康志向・グルメ志向が高まるなか、水道水の質の悪化は浄水

器へと消費者を動かしたものの、滞留水中の細菌数の問題、浄水性能の維持の問題、トリハロメタン等の問題も生じ¹²⁾、すべてが浄水器へとは動かず、異物混入問題が出たものの¹³⁾ミネラルウォーター利用者を増加させる結果になったと推測している。

著者らが行った1998年度調査後もミネラルウォーターの消費は伸び、1999年の中央調査社が行ったミネラルウォーターの飲用実態調査では、京阪地域では飲料水に浄水器・整水器の利用者が41.5%、ミネラルウォーター利用者が34.5%に及び、災害に備えての備蓄品としての購入が減少し、日常的な飲み水としての用途への移行が更に進んだと言われている¹⁴⁾。さらに2001年3月朝日新聞が行った水道水と水環境に関する全国世論調査では大都市部の浄水器利用者は45%、ミネラルウォーターを買っている人は54%に達した¹⁵⁾。著者らが推測した様に浄水器の利用者は確かに増加したが、それ以上にミネラルウォーターの利用も増加した。これは、水を買うことへの抵抗感が薄らいだというよりも、むしろ飲料水に対する関心が高まったといえるのではないかと考えられる。近年、飲料水を取り巻く環境は、高度浄水処理の導入、改正水道法により浄水場の運転や水質管理を民間企業や他の自治体に一括委託できるようになったり¹⁶⁾、小型貯水槽が規制対象に位置づけられたり¹⁷⁾、また、浄水器が家庭用品品質表示法の対象となり統一した試験方法で表示される¹⁸⁾など大きく変化してきている。

このことは、長期化する経済不況と共に学生のミネラルウォーターの利用状況に影響を与えていると考え、2002年、のどが渇いたときに購入するものについての調査を行ったところ、表4に示すように、ミネラルウォーターと回答した学生は、わずか4.6%であった。ミネラルウォーター以外を購入すると回答した学生にその選択理由を問うたところ約70%が「味」と回答していた。また、「水にお金を出したくない」という回答が約20%あ

り、学生はお金を出して買う飲料は災害等の緊急用・保存用を除いて水ではなく、お茶、ジュース、炭酸飲料等「味」のあるものということであった。現在までミネラルウォーターの需要は低下することなく伸びているといわれているにもかかわらず、このような結果が得られた理由として、学生を含め、10代から20代の若者は変化に敏感であり、新しいものも抵抗なく受け入れると考えられているが、若者（学生）は経済的にも制約されており、社会人よりも実質的な面を持つということが考えられる。

学生（若者）に生じている状況は将来の社会を予測するといわれている。また、昨今のスーパーマーケットには浄水器スタンドが登場し盛況という現状¹⁹⁾、また「水の人権論（人間の生命維持のために水を確保することは人権以外に捉えようがない。誰にでも安価で安全な水を提供できるのは水道水ということから水道水を将来にわたり守る）」という考え方が出てきたこと²⁰⁾等を考え合わせると今後このままミネラルウォーターの消費が伸び続けるかは疑問である。ミネラルウォーターの消費動向について今後さらに調査を行い検討を試みたいと考えている。

引用文献

- 1) 東京都水道局水質センター：昭和61年度水質年報，1-3，189，203（1988）
- 2) 厚生省生活衛生局食品保健課・乳肉衛生課・食品化学課：食品衛生小六法 昭和61年版，新日本法規出版，東京，1351-1352（1986）
- 3) 読売新聞 1988年5月19日
- 4) 日本ミネラルウォーター協会資料
- 5) イザヤ・ベンダサン：日本人とユダヤ人，山本書店，東京，14（1970）
- 6) 佐藤 信：統計的官能検査法，日科技連出版社，東京，89-100，316-317（1985）
- 7) 総理府内閣総理大臣官房広報室：水資源に関する世論調査 昭和61年8月調査，78-79，88-89
- 8) 総理府内閣総理大臣官房広報室：人と水とのかかわりに関する世論調査 平成6年9月調査，61-64
- 9) 酒類食品統計月報，42（3），12-16（2000）
- 10) ジャパンフードサイエンス，37（2），42-47（1998）
- 11) 中村孝一，中野鉦一：商品研究，49（3・4），7-14（1999）
- 12) たしかな目，62，8-19（1991）
- 13) 藤川 浩，和宇慶朝昭，楠 淳，野口やよい，橋本由美，太田健爾，伊藤 武，日本食品微生物学会雑誌，13（1），41-44（1996）
- 14) 宮下公一：中央調査法，503，5-7（1999）
- 15) 朝日新聞 2001年4月7日朝刊 水道水と水環境に関する全国世論調査
- 16) 朝日新聞 2001年6月23日朝刊
- 17) 朝日新聞 2001年7月4日朝刊
- 18) 朝日新聞 2001年5月16日朝刊
- 19) 朝日新聞 2002年10月17日夕刊
- 20) NHKスペシャル「21世紀日本の課題」飲み水の安全をどう守るのか 2003年3月15日

表4 のどが渇いたときに購入する物

質問事項	% (n=109)
1. のどが渇いたときは何を買って飲むか？	
イ ミネラルウォーター	4.6
ロ ミネラルウォーター以外	95.4
2. ミネラルウォーター選択者の購入理由	
イ 健康のため	20.0
ロ 味で	60.0
ハ その他	20.0
3. ミネラルウォーター以外選択者の購入理由	
イ 健康のため	10.6
ロ 味で	67.3
ハ 価格	1.0
ニ 水にお金を出したくない	19.2
ホ その他	12.5

3. は複数回答を含む。